

舞台ファーム 会社概要

～アグリベンチャー舞台ファームの取組み～



株式会社舞台ファーム / 専務取締役 伊藤啓一



株式会社舞台ファーム 会社概要

■所在地	仙台市若林区日辺字田中11番地
■代表取締役社長	針生 信夫
■設立	有限会社 舞台ファーム 2003年7月11日 株式会社 舞台ファーム 2004年8月20日
■売上高・資本金	売上高:25.4億円<R4年6月度>(グループ全体:38.8億円) 資本金:5,000万円
■従業員	102名 (グループ全体: 208名)
■業務内容	野菜・お米の生産・販売 農産物加工・販売(カット野菜/ホール野菜) 農業経営に関するコンサルティング
■取得資格	全省庁統一入札参加資格(関東・甲信越地域、東北地域) 仙台市中央市場青果市場売買参加者資格(青果部 第2-111号) 米卸売販売資格、農業生産法人資格、認定農業法人資格 仙台市飲食店営業許可(仙台市(若保衛)指令 第0289号) エコファーマー認定資格
■関連会社	(株)みちさき : 水耕栽培(トマト、葉物類) (株)旬の風 : 宅配寿司「銀のさら」店舗運営 e-フレッシュ(株) : カット野菜・業務用野菜 (一社)ステージパス : 障がい者就労継続支援 舞台アグリイノベーション(株) : 精米事業・玄米流通 福島舞台ファーム(株) : コメを中心とした農産物生産・流通



舞台ファームの目指す姿

未来の 美味しいを 創る。



01 持続可能な食と農を目指す



私たちはSDGsを重視し「美味しく、安心・安全」な食料を「安定的・持続的」に消費者の皆様にご提供できる仕組みを創っていきます。具体的には、鮮度延長、廃棄ロスの低減、カーボンニュートラル等の二酸化炭素削減への取り組みを積極的に推進していきます。

02 日本農業の新しい未来を創る

日本の農業者の平均年齢は68歳を超え、耕作放棄地の拡大など大きな転換点を迎えています。舞台ファームは新しい農業プラットフォームを構築し、既存の枠組みに囚われない取り組みを進めていきます。

03 食糧危機へ最先端技術を駆使

世界人口は2030年には85億人に到達するなか、地球温暖化による気象変動が急激に進んでいます。私たちは植物工場などの次世代型食料プラットフォームを構築し、最先端テクノロジーにて国家国民の食料の安定供給に努めていきます。



株式会社舞台ファーム 沿革

- 1720年 約300年前、初代針生家にて農業を開始。
- 1982年 江戸時代から続く農家の15代目として農業をスタート。
- 1988年 6次産業化に着手(地元スーパーとの直接取引を開始)。
- 1990年 農作物生産＋業務用野菜卸の新業態をスタート。
- 2003年 有限会社舞台ファーム設立。翌2004年株式会社に變更。
- 2005年 業務用カット野菜の事業を開始。
- 2009年 本社工場竣工。加熱用カット野菜事業、精米事業を拡大。
- 2011年 東日本大震災による津波にて備蓄したコメが流出など甚大な被害。
約3万食の炊き出しによる被災地支援を継続的に実施。
- 2013年 e-フレッシュ株式会社設立。生食用カット野菜事業を展開。
アイリスオーヤマ株式会社と共同出資にて、舞台アグリノベーション株式会社設立。
株式会社みちさきを設立。障がい者支援団体「一般社団法人ステージパス」を設立。
- 2014年 舞台アグリノベーション亘理精米工場竣工。
- 2016年 東京農業大学生物産業学部と包括連携協定を締結。
- 2018年 福島県浪江町と農業に関する包括連携協定を締結。
- 2019年 福島県双葉町と農業に関する包括連携協定を締結。
福島舞台ファーム株式会社を福島県浪江町に設立。
- 2021年 宮城県美里町に「美里グリーンベース」竣工。
福島県南相馬市と農業に関する包括連携協定を締結。



舞台ファーム管理農地の完全破壊、そして備蓄していたお米が流出

- 米の備蓄倉庫が流出 → その後の価格高騰もあり「約4億円」の債務超過へ。
- 在庫の野菜や物資 → すぐさま沿岸被災エリアへ供給、炊出しを実施。

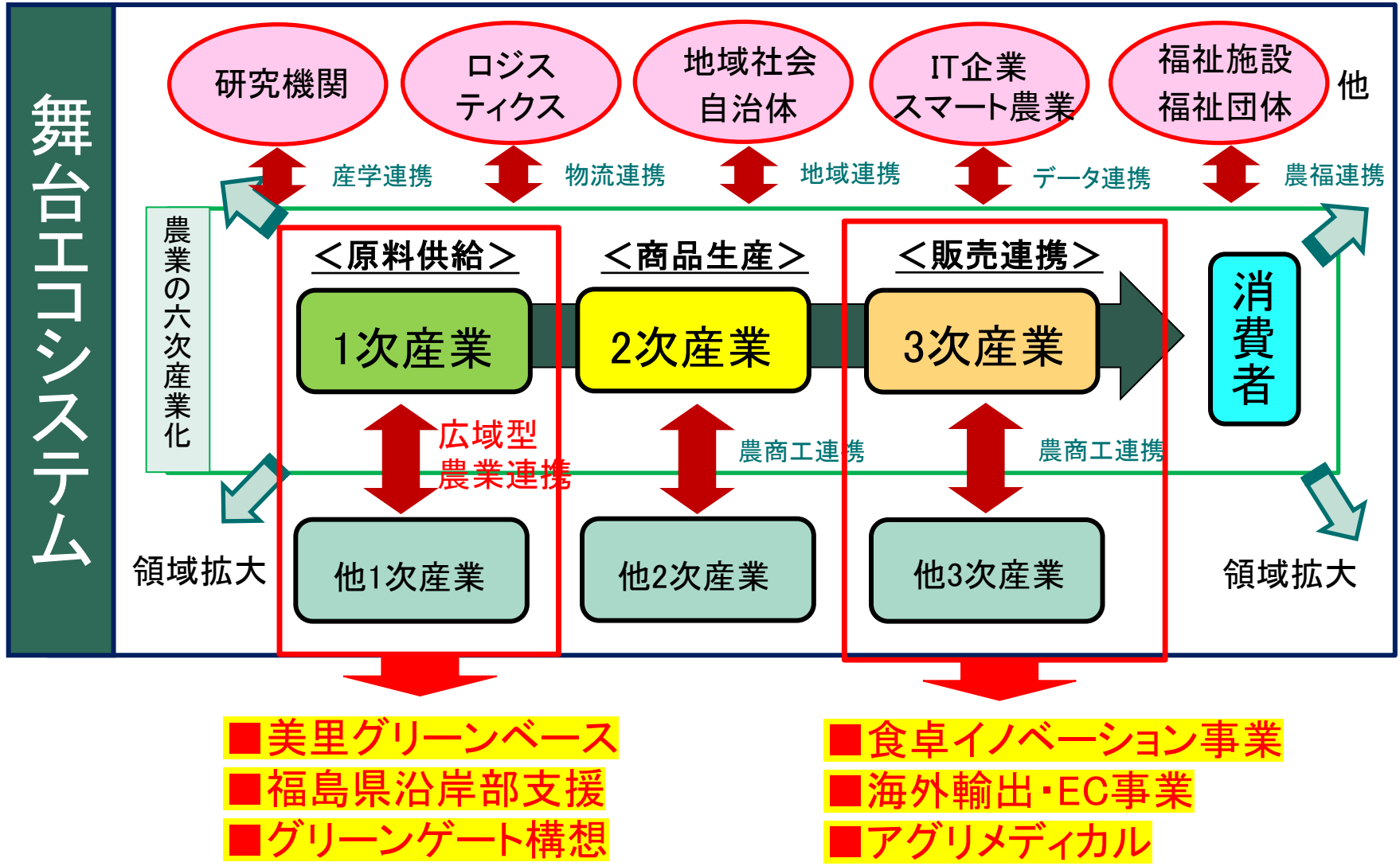


4 <舞台ファーム管理圃場(仙台)>

<震災後の炊き出し・物資搬入状況>

舞台Fの拡大戦略 ～舞台エコシステム(経済圏)とは?～

農業を中心の6次産業化から「周辺事業領域への拡大」＝ 舞台経済圏拡大へ





日本最大級の精米工場。「低温精米」による優位点あり。

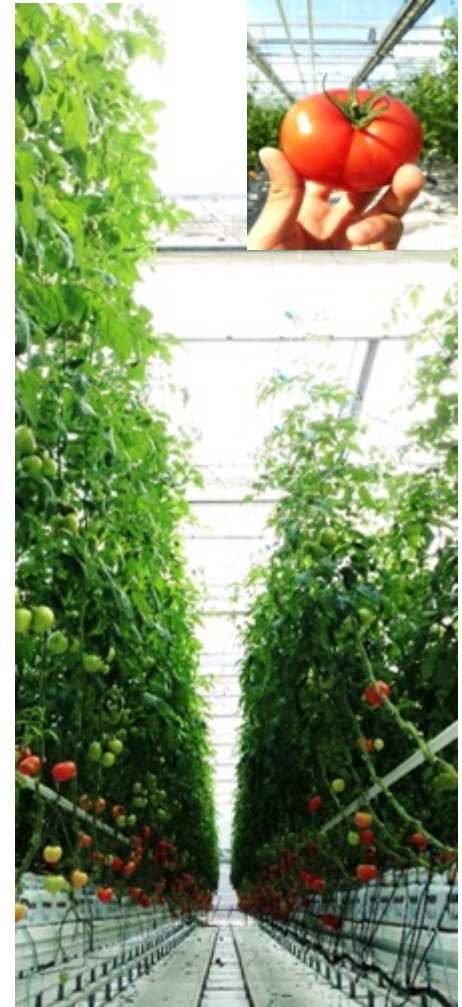
- アイリスオーヤマ社と連携し、自社農場・農業者連携のお米をご提供。
- 約42,000tのお米を低温保管可能。年間約10万tの精米生産能力。
- ”日本初” <低温倉庫⇒低温精米機⇒低温パック工場 =トータルコールド製法>
→美味しくて高品質を維持できる商品をご提供。





大型水耕栽培施設(株式会社みちさき)

計2.8haの建屋で「トマト・葉物」を栽培。「グローバルG.A.P.」も取得。



農業による「障がい者の就労支援活動」を積極的に行っています

舞台ファームグループ「一般社団法人ステージパス」では、農業を通じて障がい者の就労支援を行っています。障がいの程度や状況に応じて様々な仕事にチャレンジする環境を作っています。

＜一般社団法人ステージパス＞

- H25年9月設立
- 宮城県(障)指令89号 事業所番号0410913024
- 就労継続支援A型
- 障がい者の方は22名が所属



H28年刊行「農業法人白書」に当グループの取組が優良事例として紹介

次世代型植物工場「美里グリーンベース」概要



- 名称： 美里グリーンベース
- 場所： 宮城県美里町中淬地区
- 面積： 建屋5.1ha / 敷地7.6ha
- 総工費： 約34億円
- 生産物： リーフレタス
- 光源： 天然光・LED併用（次世代型）
- 生産量： 最大1日3~4万株を出荷
- 竣工： 2021年10月竣工
- その他： J-GAP 2022年10月取得
持続可能な「食と農」のため
様々なSDGsの取組みを実践

宮城県美里町との連携により 地域農業を活性化することを使命に



気象要件が安定していることからハウス栽培に適しており、かつ東北自動車道も近く交通の便も良い宮城県美里町。

美里町と舞台ファームは、5年前から「集落営農組織の法人化支援事業」や農業法人の経営者を支援する「農業経営塾」などの取組を通じ、地域農業の活性化に努めてきました。BMS次世代型生産プラントの建設により、更なる農業の活性化、ひいては地域経済の好循環を図っていきます。



ますます不透明さを増していく「価格」や「数量」に「安定性」を！

天 地球温暖化による
天候リスク



地 干ばつ・砂漠化
優良農地減少

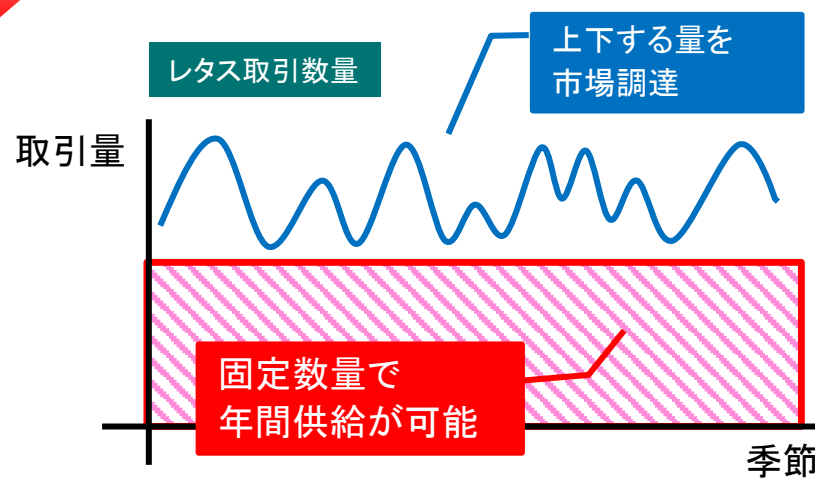
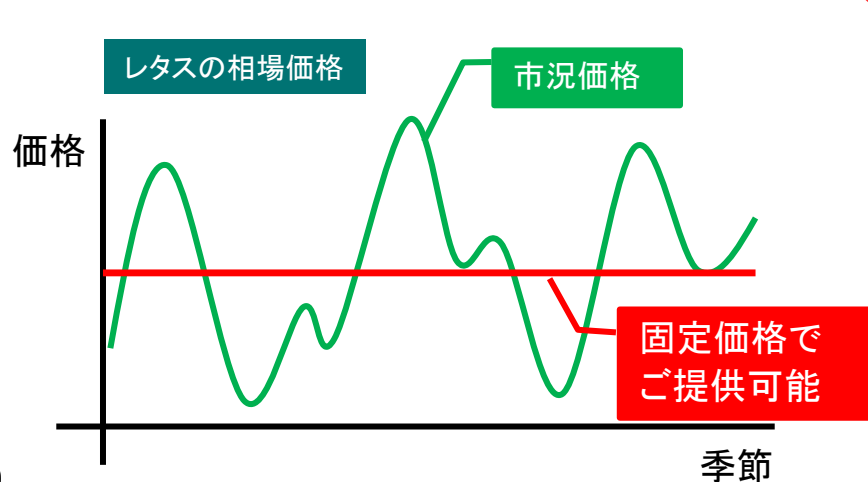


人 戦争・疫病
円安・国力低下



美里グリーンベースで

「品質」「量」「価格」を担保！



「サラダ革命です!!」

 BUTAIFARM

つみたてサラダ

3種のいりどりレタス



キッチンを畑に変える

つみたてサラダは根と培地がついた「生きた野菜」をお届けいたします。深めのお皿などに入れ、軽く水をかければ最低1週間は栽培が可能です。いつでも新鮮なレタスを、簡単便利にキッチンで収穫することができます。



キッチンで
簡単/便利に
レタスを収穫!



簡単便利・美味しく調理

「つみたてサラダ」は、根の付いた「生きた野菜」をお客様のキッチンにお届けする新しい「価値」を提供します。お客様は、好きな時に鮮度抜群のレタスを摘む事ができ、好きな時にさまざまな料理に使用することができます。



鮮度革命 ～キッチンを畑に変える新しい価値を創造～



美里GBは、レタスを作りながら「地球を冷やす」工場です。

＜電気・熱＞

- ・ソーラー電力活用を加速
- ・温湯ボイラーのCO2も活用
- ・他産業のCO2も利活用

＜培地＞

- ・ソイルブロックを使用、
プラを使わない仕組み
- ・培地再利用で資源保護

 MISATO
GREENBASE

 JGAP
認証農場
登録番号 04000027

＜水・肥料＞

- ・循環式。水資源を最大活用
- ・肥料が外に出ず、地下水、
海川を汚染しない仕組み

＜カーボンニュートラル＞

- ・籾殻ボイラーを活用
- ・農地への炭素固定に活用
- ・土壌改良剤としても可

舞台ハイブリッド 土耕栽培とは？



「舞台ハイブリッド土耕栽培」とは、従来の土耕栽培と水耕栽培を掛け合わせた生産方法。

舞台ファーム独自の「土を使ったソイルブロック」を培地とすることで、自然栽培や有機栽培に近い環境づくりが可能となります。

根張りが良いことで肉厚で遅しい野菜を生産でき、同時にスポンジなどの異物混入リスクを軽減。

スポンジ等を使った栽培が主流である植物工場に対し、舞台ハイブリッド土耕栽培は地球環境と植物の生育環境を同時に考えた、全く新しい生産方法となります。



独自の農業テクノロジーで質・量・価格を追求→新しい農業へ進化！



栽培方法：
**舞台ハイブリッド
土耕栽培** 商標取得済



- 土耕と養液栽培のハイブリッド
- 太陽光とLEDのハイブリッド工場
- 硝酸態窒素濃度をコントロール
- 鮮度革命



栽培システム：
**舞台ムービング
システム (BMS)**



品質管理：
**舞台品質
マネジメントシステム**



登録番号 04000027

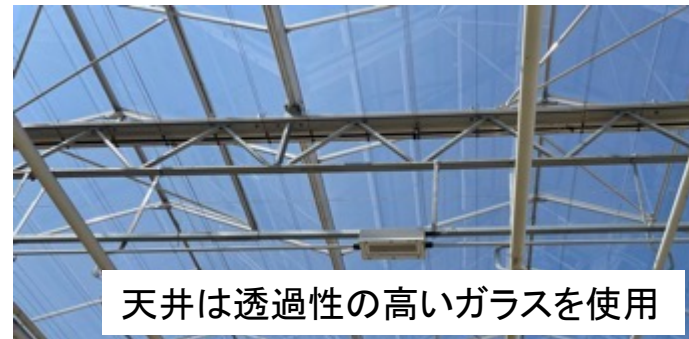
- 播種～栽培まで全て全自動の管理システム
- 露地栽培の約80倍の生産効率を実現
(全自動による面積の最大活用)
- 安定品質・圧倒的數量の算出

- J-GAP認証取得(2022年10月取得)
- 舞台ファームグループでの
Global.G.A.P. とAsia-GAPの取得
- 菌管理システムによる安心・安全

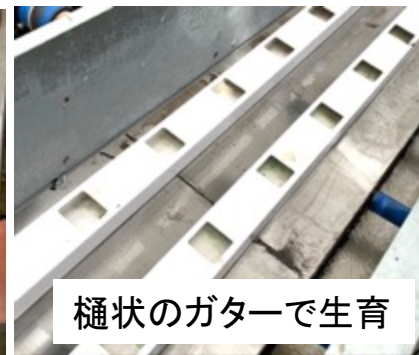
「美里グリーンベース」写真



AIによる環境制御・自動栽培



天井は透過性の高いガラスを使用



樋状のガターで生育

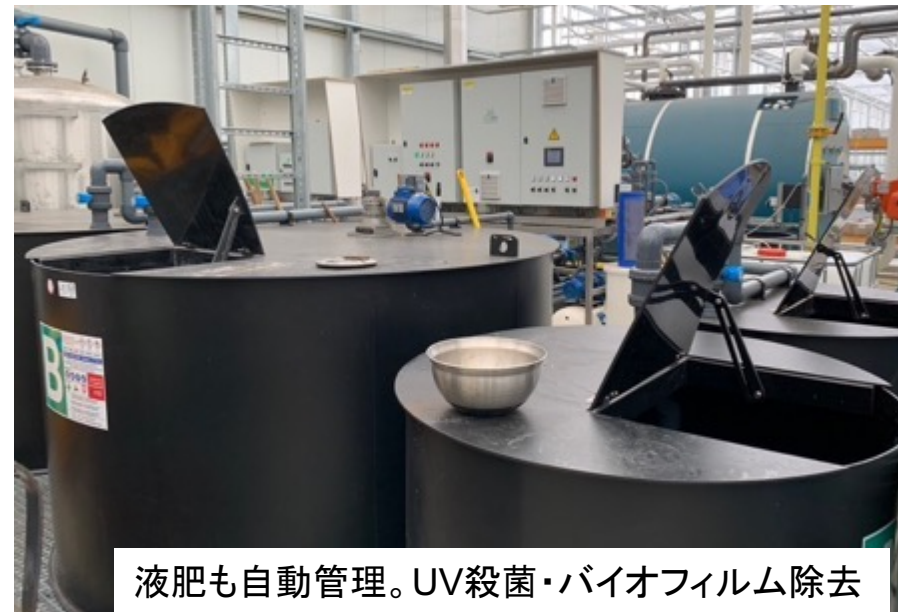


最新鋭のLEDで天候不順の課題をクリア



ソイルブロックを活用

「美里グリーンベース」写真





美里グリーンベースの「ポジショニングマップ」



リーズナブル



太陽光型植物工場

高品質
安定供給

低品質
不安定



露地栽培の80倍※の生産性を実現

「質・量・価格」における、
メリット最大化へ挑戦！

※同規模のレタス露地栽培(年1作)との面積生産数量比較

高価格

地元農業法人とも連携～地域の未来を牽引～

5年前～美里町農業者の法人化の支援、産地化促進、農業経営指導を実施



H29.3.5 タカギ農産 第一回発起人会



H29.3.18 中塚ファーム育み 第一回発起人会

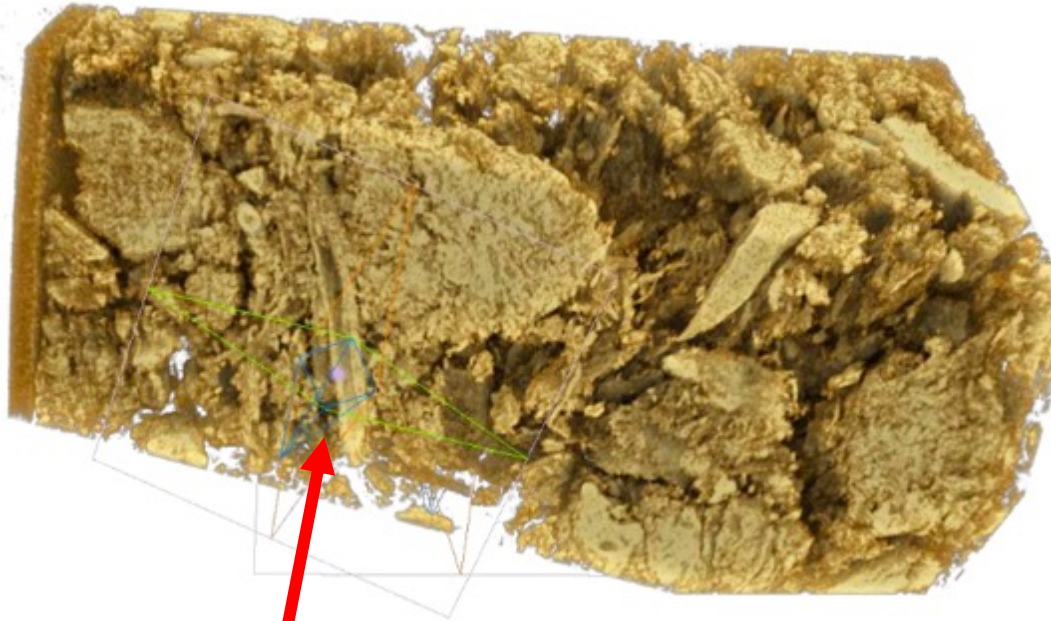


R1. 7.3 美里プラス農業経営実践塾

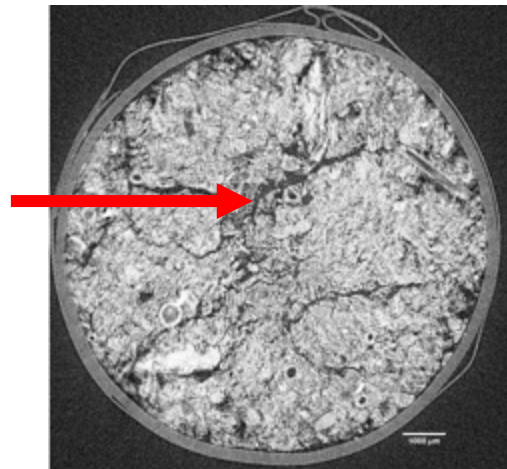


R2.1.15 コメの輸出に向けた説明会キックオフ

東北大学と植物の「根を中心とした生育メカニズム」の共同研究へ



東北大学との共同にて
撮影したソイルブロックと
レタス苗の根の様子
(佐賀の放射光設備を利用)



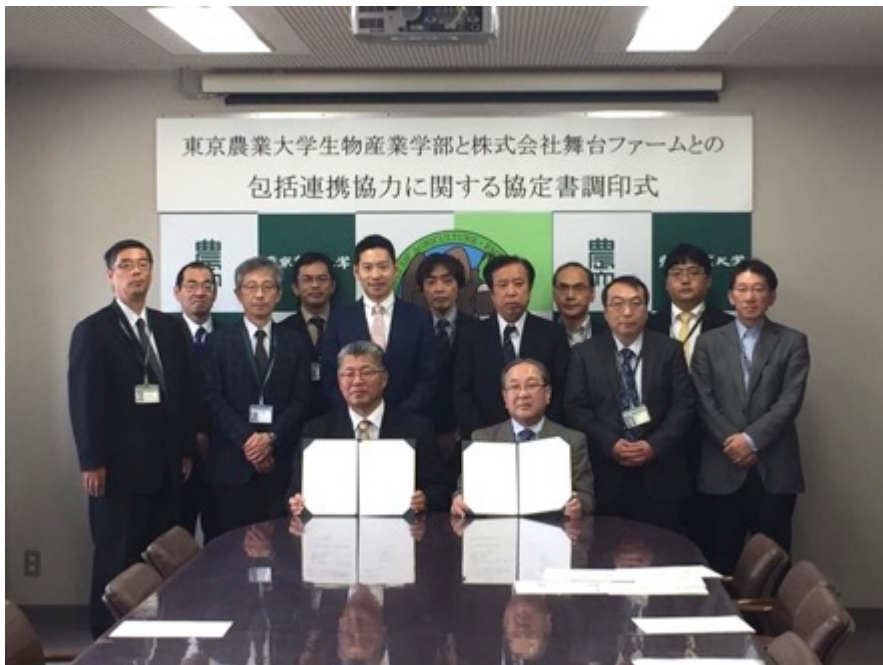
＜次世代放射光設備「ナノテラス」＞
(令和4年度に完成予定)

舞台ハイブリッド土耕栽培、
および、可食部の優位性を
明確にするエビデンスを取得

→ バイオ炭の共同研究も
同時にスタート

東京農業大学と連携し、日本農業の課題解決に取り組む。

- 植物工場における生産物の生育に向けて → エビデンスなどの協力体制
- 担い手育成の取組み → 舞台Fも農業版MBAの構築に参与
- 福島県沿岸部支援 → 東京農業大学・浪江町と三位一体で営農支援
- 針生・伊藤 → 大学の客員研究員を拝命 → 授業を受け持ち各種指導など



農業経営者人材 = “グリーンカラー人材”の育成が急務

■ブルーカラー = 主に肉体労働を基本とした職種

■ホワイトカラー = マーケティング・営業などの職種

農業知識・スキルを保持 × マーケティング・営業ができる

→ さらに、「実行していく強い精神力」と「経営力」

→ 農業経営者人材 = 「グリーンカラー」

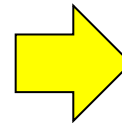


ブルーカラー



ホワイトカラー

実行する
強い精神力

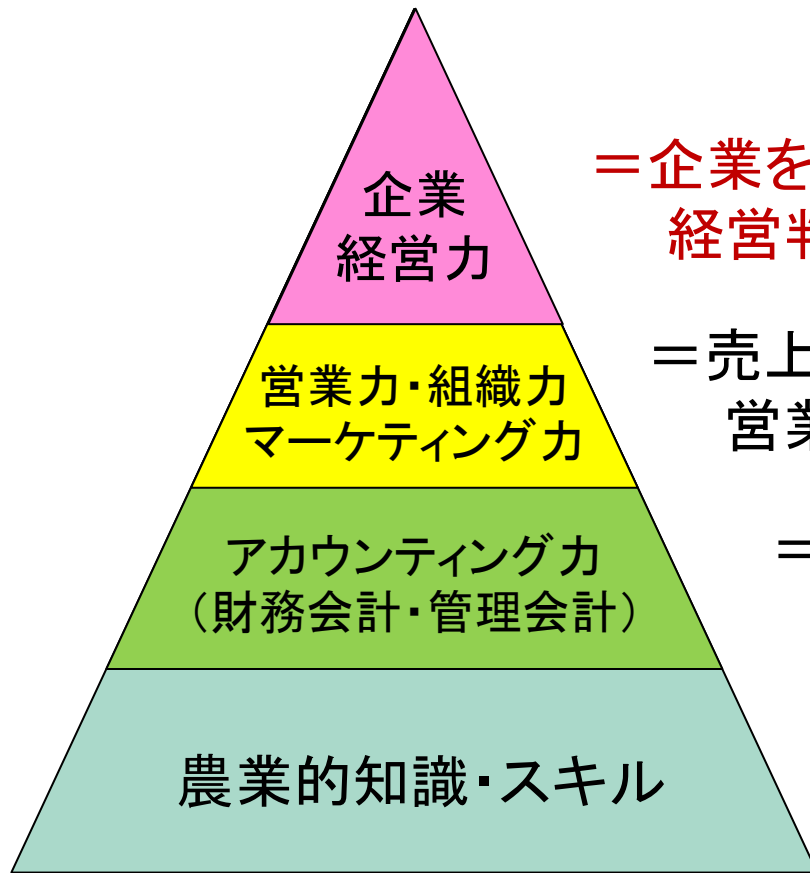


グリーンカラー



今後の求められる「農業人材」とは？

農作物を作っているだけではダメ！「農業経営人財」の育成を進めていく！



= 企業を先へ導く、
経営判断能力、チャレンジ力



= 売上を拡大していくための、
営業力、マーケティング力、組織統率力

= 「状況の見える化」と「目標設定」
数字管理能力、課題発見能力

= ベースとしての農業知識・スキル

元気・感動・繋がり = 最終的には「人間力」向上



横串型でDXや生産性向上の仕組みを推進→ 優秀な若手の登竜門

